

<b>■After</b> <b>建築名称</b> 下段: 英語名	<b>蘇る先代からの住まい</b> A home from our ancestors revived		
<b>建築用途</b>	大分類 住居	小分類 住宅	
<b>改修設計者</b>	MKデザインスタジオ一級建築士事務所/柿本美樹枝 & 一級建築士事務所やどり木/近藤富美	URL	After 格子壁で補強したリビング、天井には障子明り窓 撮影者 撮影: 針金洋介 提供者 提供: MKds
<b>所在地</b>	熊本県上益城郡甲佐町	Google Map	
<b>改修年</b>	2018年		概要 after 平成28年(2016)熊本地震で被災し解体予定だった「大規模半壊」の伝統家屋を修復。築125年の先祖代々からの住まいが蘇った。
<b>建築規模</b>	建築面積223.37㎡、延床面積241.11㎡、2階建て		
<b>掲載書誌</b>			概要 before 瓦が損壊、漆喰が剥がれ、外壁の海鼠壁は落ち、北側はシロアリ被害も見受けられ、床は下がり、現代工法の増築部分と境は雨漏れ。 After 落下した長押や破損した欄間、土壁を修復して再利用
<b>賞・選定</b>			
<b>資料・その他</b>	URL		
<b>■Before</b> <b>建築名称</b>	<b>M邸</b>		概要 before 瓦が損壊、漆喰が剥がれ、外壁の海鼠壁は落ち、北側はシロアリ被害も見受けられ、床は下がり、現代工法の増築部分と境は雨漏れ。
<b>建築用途</b>	大分類 住居	小分類 住宅	
<b>■写真</b> Before 座敷の被災した様子、罹災証明は「大規模半壊」	After 外観全体、2階部分(昭和の増築)は減築せず	After 落下した長押や破損した欄間、土壁を修復して再利用	  
撮影者 撮影: 柿本美樹枝 提供者 提供: MKds	撮影者 撮影: 針金洋介 提供者 提供: MKds	撮影者 撮影: 針金洋介 提供者 提供: MKds	
<b>■リノベーション内容</b>	<b>キーワード</b> 修復、減築、再生、耐震補強、バリアフリー、断熱改修、自然素材	<b>内容</b> 立派に黒光りした太い柱や梁を拝見し、壊してしまうのはもったいないと、床下や小屋裏の調査に入り、修復可能とお伝えした時のご主人の安堵の顔は忘れられません。周りがどんどん解体され、新築されていく中、余震も続き当初は修復するかどうか、ご親戚の皆さまも一緒に悩まれたことでした。末長く住み継いで頂くために、伝統構法の復元力特性をいかした耐震補強(制振ダンパーの採用や木製の格子壁)に加え、土壁の通気性を生かす杉の断熱材を用い快適性をアップ。通風採光のためのトップライトや内部のバリアフリー等、暮らしやすさの改修も合わせて行いました。床の間は、元気が出るようにと、ベンガラ入りの赤漆喰で修復し、畳の縁も赤色で統一。被災した際の恐怖の体験から、新たな気持ちで住み続けられるようカラーコーディネートも。地震で割れた欄間や建具も出来る限り修復し再利用することで、先祖代々からの住まいの息吹を継承しています。	
<b>■備考</b>	被災建物の調査や修復手法の検討には、建物修復支援ネットワークのご支援、認定NPO日本民家再生協会の仲間の協力、熊本県立大学の北原研究室にもご助言を頂きました。建築士会ではダンパーメーカーと限界耐力計算の講習会を開催。復興は先人の知恵と経験者との情報共有がとても大事だと実感。修復の知恵の継承を次世代に繋げて行きたい所存です。(右図:床下の制震ダンパー)		
<b>■作成者氏名/所属</b>	柿本美樹枝/MKデザインスタジオ一級建築士事務所	作成協力者	